

耳鼻咽喉科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者 野田 和洋

研修期間 4週～

I. 対象となる疾患・病態

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般

II. 研修到達目標

- ・一般目標(GIO ;General Instruction Objective) ①
 - 1) 外来で行う検査機器やその検査方法を理解する。
 - 2) 症状、所見による診断および鑑別診断を考察する。
- ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ①
 - 1) 必要な検査を行い結果を判定する。
 - 2) 診断を推論し、鑑別診断を列挙する。
 - 3) 適切な治療計画を立てる。
- ・一般目標 (GIO ;General Instruction Objective) ②
 - 1) 患者およびその家族さらには医療従事者とのコミュニケーション能力を習得する。
- ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ②
 - 1) 検査結果、診断結果を患者およびその家族にわかりやすく具体的に説明する。
 - 2) 指導医への報告、他科との連携の必要性を判断し実行する。

- ・一般目標(GIO ;General Instruction Objective)③
 - 1) 手術の原理と有用性、危険性を理解する。
 - 2) 基本的な手術手技を習得する。
- ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ③
 - 1) 基本的な手術を実施する。
 - 2) 周術期の管理を行う。

III. 方略(研修場所：外来、病棟、手術室、臨床検査室)

指導医のもと、午前中は外来診察、午後は手術および病棟診察を担当する。夜間、耳鼻科診察の依頼があれば、症例により指導医とともに診療に当たる。

外来診察では、初診患者の間診をとり、必要な検査を行い、指導医とともに検査結果を評価し治療方針を立てる。

病棟診察では、指導医とともに病棟回診を行う。担当患者の治療計画を指導医と討議する。病棟カンファレンス、症例検討会に参加する。

手術では、担当患者の手術助手および症例により指導医のもと術者を担当する。

IV. 評価

指導医との討論、病棟カンファレンス、症例検討会を通して随時評価を行う。

V. 研修医への提言

医師として診断能力や治療手技の習得は重要ですが、それと同等にコミュニケーション能力を身につける事は大切です。患者およびその家族が納得できる説明を心がけてください。また、他診療科や医療スタッフとの連携も医師としてまず身につけるべき能力と考えます。